



キャプテン×国公立大合格対談

まずは志望校を決めた時期から教えてください。

矢野：大阪教育大を知ったのは1年の夏ぐらい。教育学部のある大学を調べたことがきっかけで。

稲荷：工学部っていうのは、大学進学を考え出した時から、なんとなく思っていて。1年の時はとりあえず大阪公立大行きたいって勝手に思ってた。2年になってちょっとずつ現実を知り始めるというか…(笑)自分との差を感じ出して、3年の夏ぐらいに静岡大に興味を持つようになりました。

それぞれキャプテンを務めて。勉強と部活のバランスは？

稲荷：3年の夏になって、ようやく5:5ぐらいになったけど、1・2年の時は圧倒的に部活メインでした。勉強1割あればいいぐらい。さすがにテスト期間は毎日自習室に来てテスト勉強。あとは高1・高2の夏休みの時は、午前中練習して、昼から塾に来てたかな。毎日ではなかったけど。練習後だったから、結構しんどかった。ちょっと勉強して疲れたら、よし帰ろう、みたいな(笑)

矢野：部活を引退してからは、絶対毎日塾に来るようにした。引退するまでは部活7、勉強3ぐらい。でも1年の時から勉強しない日を作るべく作らないようにしてました。4STEP(数研出版)は毎日絶対やる、みたいな。バスケ部は、みんな部活が終わったらそのままACへ来る、っていう集団で。自分だけ遊ぶのを断って塾に行く、ということはなかったから、それもよかった。結構みんな勉強しようとしてたから。

湯川：部活動で1番しんどかったことは？

稲荷：サッカー部は基本テスト期間中でも練習はあったから、それはしんどかった。夏休みの遠征も年々増えていったし…。あとはキャプテンとしてチームをまとめるっていうのもだいぶしんどかったです。選手と、監督やコーチ陣の中間に立つのが俺らの仕事で。監督やコーチ陣から言われたことを選手にどう伝えるかが難しかったし。そういうのはしんどかったかなと思います。

矢野：バスケはオフの日もあってそんなにしんどくなかったかも。キャプテンとしても、いざと言う時に中心になるっていうだけで、それほど気にしたことはなかったです。

受験を経験した上で、1～2年の頃を振り返って思うことは？

矢野：英・数の大切さ、かな。俺はマジで数学しか勉強してなかった。でもそのおかげで3年になってから数学に苦しめられることはなかったです。やっておいた方がよかったのは英語。英語が嫌いで捨ててしまって。志望校も英語が不要な大学を探したり、進学の幅が狭くなってしまったので、後悔してます。英単語は絶対。3年になって英単語を覚えるところから始めるのはマジで時間がもったいない。

稲荷：ちょっと恥ずいよな、ターゲットばかり開くん。お前まだそんなことやってんの？みたいな。俺は、1・2年でがっつり勉強した記憶がないから、今になって思うことは、勉強する習慣をつけておけば良かった。勉強し始めたのが3年になってからやから、4月～7月は勉強してたっていうより、『受験勉強を始めるための体づくり』みたいな感じで時間を使わ



進学先

静岡大学

工学部

稲荷汰一さん

桐蔭高校
サッカー部
キャプテン



進学先

大阪教育大学

教育学部

矢野啓太さん

桐蔭高校
バスケットボール部
キャプテン



インタビュアー

湯川晃至
(AC 県庁前校カウンセリングスタッフ)

んとあかんかった。だからそれを高1・高2でしておくべきやったな、って思います。

受験生活で1番辛かった時期はいつ頃？

矢野： 共テ前。俺はその時期の記憶が全然ない！焦りと不安で、無心で勉強してた気がする。でも友達がみんなやってたから、続けられた。1人やってたら続けられてなかったですね。

稲荷： 俺は11月かな。11月頃から啓太たち、6月の総体引退勢が夏に勉強した成果が点数に出始めて。模試の点数が600点台がデフォルトになりつつあったやん？でも俺らはその時期ようやく部活引退って段階で、めっちゃ焦ってた。受験においては、選手権まで部活を続けたことはマイナスやと思う。でもそれでもし俺が勝ったら大逆転じゃないですか！勝ったろうって心の中で思ってた。勝ったって言いたい、模試で啓太に勝ってボロカス言ったら！っていう気持ちで俺はずっとやってたかも(笑)

矢野： 逆にそれが俺らにはプレッシャーやった。サッカー部には、汰一には絶対負けたくない、俺のあの夏休みはなんやったんや、って。お互いといい影響やったんやな、きっと(笑)

ACの授業について教えてください。印象に残ってるのは？

2人： 国語！(共通テスト攻略国語／長沼先生)

矢野： 長沼先生の影響はかなり大きかったと思います。点数が2倍になったんで！(笑)長沼先生だけを信じてました。絶対受けた方がいい。2年の授業で古典文法を、3年の授業では基礎から応用までの知識を教えてもらえたので楽しく国語を学ぶことができました。

稲荷： 爆伸びしましたね。圧倒的過去最高点！2年の時に週に1回でも授業を受けて知識をつけることができたのがよかったと思う。3年では国語の勉強時間を確保できたことと小テストで知識を覚えたことも役立ちました。

湯川： 特に理系生はなかなか自分から進んで国語の勉強しようっていう気にならないからね。高2からの積み重ねが報われたね。ほかのクラスライブの授業はどうだった？

稲荷： 数学の青石芳樹先生の授業もすごく良かった。1～2年のアドバンス数学では、答えを求める、ということだけでなく記述問題で自分で解答を作る時の悪い例もあわせて教えてもらえて。学校より塾の授業が先に進んでいたんで、学校の授業の予習になって分かりやすかったし。あと高3で受けた共通テスト攻略は、共テの問題だけでなく二次寄りの問題も練習できたこともよかったと思う。共テでは、全ての問を解くことよりできる問題を解く方がいい、みたいな攻略法も色々教えてもらえたし。

湯川： サテラインはどうだった？

矢野： 貫先生の数学が良かったです。(数学的思考の鍛錬ⅠAⅡBC、数学的思考の鍛錬Ⅲ)

稲荷： 俺も貫先生と、漆原先生の物理。(漆原晃のわかりやすく点が伸びる物理)

矢野： 今までは、与えられた公式を使ってこういう

パターンの問題はこれを使って解くんよね、みたいなテンプレが自分の中でできてたんですけど。貫先生の授業を受けると数学の本質がわかるというか。答えから逆算して、この解答を出したいからこう解いていくよなって。ルートがちゃんと見えるようになった。早く貫先生の授業受けたいって思っていました。夏休みは毎日ⅠAⅡBCとⅢを1日1講ずつ受ける、みたいな。予習では全然できなかった問題も授業を聞けばすぐわかったし。このテキストを完璧にできたらエグイ！テキストの付録部分も全部解いた方がいい。二次試験の3日前に見た、証明の問題が二次試験本番でもそのまんま出ました！

稲荷： 貫先生の授業は難しいと感じた单元もあったけど、新しい解法や考え方を学べたから二次対策用として受けてよかったです。物理の漆原先生は、この過程はこういう考え方でやりたいから、この手順を踏んで…って解法をいくつかのステップにわけて説明してくれるのがすごくありがたかった。どんな問題にでも対応できる力が身に付いたと思います。特に熱力学がわかるようになったのは漆原先生のおかげ。

大学受験を振り返って、今思うことは？

矢野： 修行。でも間違いなくプラスになったと思います。共テを受けるまでは、浪人してでも第1志望に行きたいと思ってたんですけど、共テを受け終わったら、もういいやってなった(笑)でもそれは諦めではなく、そのぐらい共テに向かって自分がやれるだけのことはやった、やり切った、というか。そういう気持ちになれたので。

稲荷： 地獄！共テがマジできつかった。ACで受けた、「共通テストリハーサル」。リハと本番と4日ある中で、リハの1日目が1番緊張した！だからリハを受けておいてマジでよかったな、って思います。

矢野： トイレに行くタイミングとかもわからなかったよな！みんな考えて、テストが終わった直後と休憩の終わりぐらいに2回行けば理科の130分は絶対耐えられるっていう。経験してるのとしてないのとでは全然違った。

おすすめの勉強法はありますか？

矢野： 問題集や参考書、1冊を完璧にするということ徹底してました。それをずっとやってたらめっちゃ伸びました。理科は共テならリードαを4周はやったし、二次対策は良問の風の物理(河合出版)を1か月で3周しました。

稲荷： 俺は、風呂が、暇やし何も考えることないから嫌なんやけど、その日1日の勉強内容を思い返す時間にすればいいやん？って気付いて。その時に思い出せなかったり、気になったりした内容はあとで見直す。数学の解法、“覚えただけ”やったところも、こうやったな、って考えながら思い出して。その時間、結構意味があったな、って思います。

ACの後輩へ、アドバイスをお願いします。

矢野： 毎日勉強してください！0はだめ！1日部活で無理な日とかなら仕方ないけど、終わったら塾でもどこでも、好きな教科だけでも良いから、1日1時間はペンを持つ。

稲荷： 勉強を嫌いになりすぎない、ってことが大事やと思う。嫌いになりすぎると一歩目が出ない。0を1にする時が一番きつかった。部活優先は絶対やし、まだ“100勉強”じゃなくてもいいけど、30でも40でも始めることが大事で。俺はそれができてなかった。他の人より高3夏までの勉強量が圧倒的に少ない。

矢野： 勉強したことが点数にあらわれるのはマジで遅い。学校の先生は『秋に伸びてくる！』って言うじゃないですか。でも実際は、12月、なんなら1月の直前と思った方がいい。

稲荷： 例えば「春に勉強しておくといい」って言われたら、俺らは「春に勉強すれば直接点数につながる」って思ってしまった。でもそうじゃなくて、春に勉強した分、夏にやることが減って、その分、夏に勉強できることが増えて…前倒しできるって話やって。春休みにフォーカス・ゴールド(啓林館)を数Ⅲまで1周全部やりきったから、啓太は夏休みもやりたいことができたんよ！

矢野： それはそう。夏休みは、フォーカスの難問とか発展問題をやりました。難関大講座の数学(今村先生)の宿題も永野聖(AC県庁前卒／和歌山県立医科大学薬学部進学)と1問に1時間ぐらいかけて一緒に考えた。俺が二次対策で物理にばかり時間を費やせたのは数学がある程度できてたから。でも、二次で4教科なんて自分には絶対無理だった。共テが終わってからは、あんまりやる気も出なくて。みんな共テ終わったらやり切った顔してたし(笑)だから、京大とか阪大、神大とかに行きたい子は相当勉強しとかんとやばい！

編集後記 ～インタビューを終えて～



部活でキャプテンを務めていた二人。プレッシャーもあったと思いますが、勉強しなければならぬ時には必ず自習室にいたという印象があります。稲荷君は、時々愚痴をこぼすこともありましたが、切り替えて次どうすべきかを考えることができる生徒でした。引退してからの彼の集中力は、他の高校の生徒も凄いと舌を巻くくらいでした。選手権大会(10月後半)まで続けた分、みんなより頑張らないといけないという自覚の元、妥協なく努力を続けました。EQでは、練習で遅刻してきても、他の生徒を追い越す速さで終了してみせるなど、手を抜くことなく頑張っていました。一方矢野君は、黙々と勉強に打ち込むタイプでした。今、自分のすべきこと、目標に到達するための計画を自ら考え、冷静に行動できる判断力が強みでした。細かな所をどうするか迷ったときにはすぐに相談に来てくれ、効率よく勉強することができました。高3では、数学の勉強をするのが楽しいと自ら言うほど意欲的に取り組んでおり、サテラインを受講するのが本当に楽しかったようで、「早く次受講したいです」とよく話してくれました。二人とも、いつも近くには切磋琢磨する友達が大量おり、常に「あいつが頑張ってるから俺も頑張る」という空気感が出来上がっていたことも、嫌いな科目があろうとも必死で勉強し続けられたのではないかと思います。どんなことにも全力で取り組む姿勢は、必ず思い描いたものにつながると信じています！次のステージで、これからも頑張ってください。

AC県庁前校カウンセリングスタッフ 湯川晃至